

【会場アクセス】

クリスタルタワー20F A会議室

(大阪市中央区城見1-2-27) TEL: 06-6949-5151

[JRをご利用の場合]

- ・JR東西線「大阪城北詰駅」下車 徒歩約5分
1番出口を出て片町橋を渡り約100m
- ・JR環状線「京橋駅」下車 徒歩約10分
西出口を出て大阪城京橋プロムナードを通り、
ツイン21を抜け約200m
- ・JR環状線「大阪城公園前」下車 徒歩約10分
大阪城ホール方向に歩き、大阪城新橋を渡り、
二つ目の信号を左へ約200m

[京阪電車をご利用の場合]

- ・京阪本線「京橋駅」下車 徒歩約10分
片町口を出て大阪城京橋プロムナードを通り、
ツイン21を抜け約200m

[地下鉄をご利用の場合]

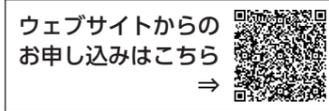
- ・長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク駅」下車 徒歩約1分
3番出口からクリスタルタワー地下1階へ地下道が直結



【参加申し込み・お問い合わせ】

下記の申込内容を、一般財団法人たんぽぽの家まで、FAX、郵送、E-mailでお知らせください。

お申し込み先 | 一般財団法人たんぽぽの家
〒630-8044 奈良市六条西3-25-4
TEL: 0742-43-7055 FAX: 0742-49-5501



お問い合わせ | 一般財団法人たんぽぽの家 (担当: 小林・佐賀)
E-mail: carecare@popo.or.jp

【申し込みフォーム】 FAX ⇒0742-49-5501

必要事項をご記入のうえ、該当する項目にチェックをいれてください。

※ご記入いただいた個人情報は、本セミナーの受付事務においてのみ利用させていただきます。

ふりがな	ご所属(よろしければ、活動先・活動内容などをお書きください。)	
お名前		
ご住所(□ご自宅/□勤務先等) 〒		
TEL(□ご自宅/□勤務先等)	FAX(□ご自宅/□勤務先等)	
Eメール(□ご自宅/□勤務先等)		
通信欄(ご質問・ご要望があればこちらにお書き下さい)		

ケアとソリューション 大阪フォーラム

ケアとテクノロジー

テクノロジーから生まれる愛と哀しみ

参加費
無料



テレノイドは大阪大学とATR石黒浩特別研究室により共同開発されたものです

日時 — 2015年10月24日(土) 13:20~17:00
(13:00 受付開始)

会場 — クリスタルタワー20F A会議室
〒540-6020 大阪府大阪市城見1-2-27

定員 — 150名

対象 — ● 子育て、看病、介護をしている人、それを支えるNPOの職員
● 教育にたずさわっている人、大学・研究機関
● 医療・保健・看護・福祉にかかわる職員、中間支援組織
● カウンセラー、ソーシャルワーカーなど対人援助者

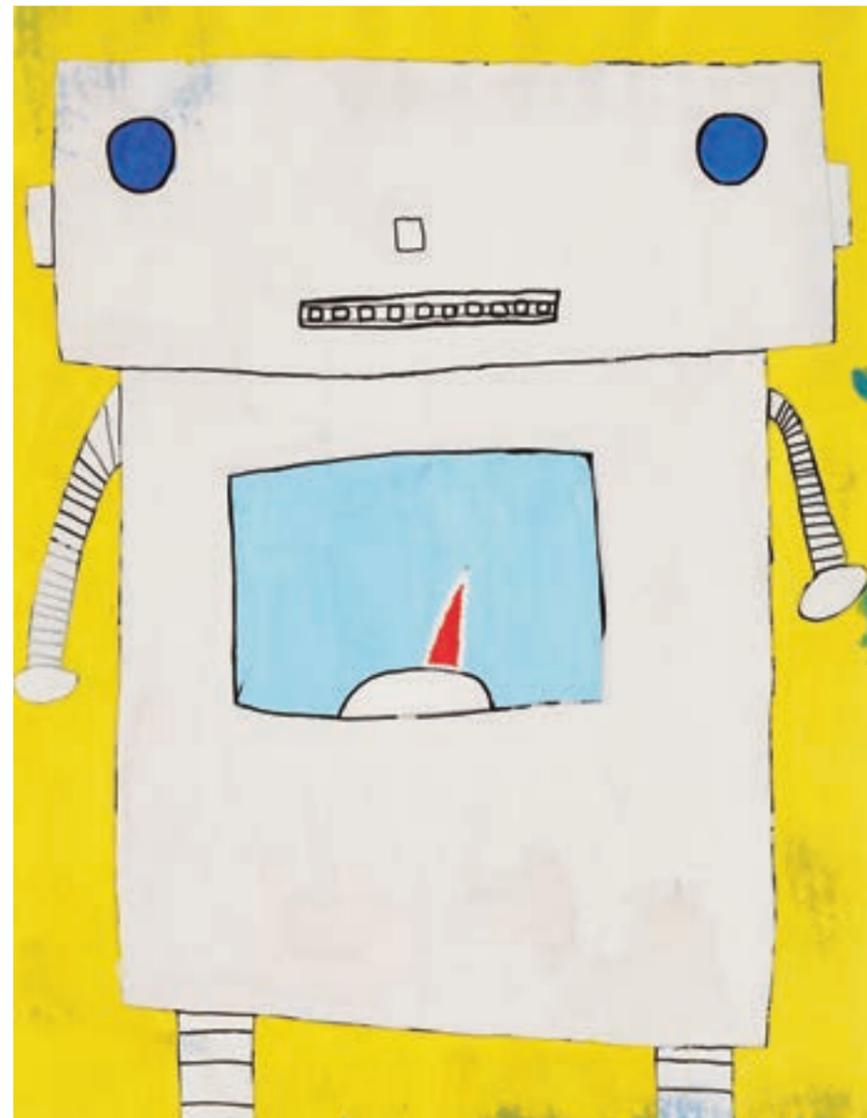
主催 — 一般財団法人住友生命福祉文化財団
一般財団法人たんぽぽの家

「人が人として世話をする」 — 家庭・職場・地域の支えあう力が弱くなり、とりわけ“ケア”の現場の人手不足から、人間らしく寄りそうことがむずかしくなっています。

医療・介護・子育てといったケアは、お互い命ある人として、さまざまな感情をやりとりする繊細な行為です。だからこそ誰かに頼ることがむずかしく、ストレスと無力感をかかえ、時には孤立感に悩まされ、人として世話ができたのか、という思いにかられます。

今、ケアの現場では、医療・介護ロボットなど“テクノロジー”化が注目を集めています。産業の発展とともに進歩してきたテクノロジーが、人の感情や尊厳といった分野にも関わるようになってきているのです。

このフォーラムでは、すでにテクノロジーを活用しているケアの現場の声を聴くことで、さまざまな観点からその役割と可能性を評価し、人のやるべき行為について再考し、その未来を見つめたいと考えます。子育て・教育・医療・福祉など、ケアの分野をこえた交流を深めるためにも、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



©UEDA Tadashi/AbleArtCompany

13:20 } 13:30	<p style="text-align: center;">主催者あいさつ</p>
13:30 } 14:00	<p>キーンノート・スピーチ</p> <p>人の感情と尊厳に、テクノロジーはどう関わることができるのか。</p> <p>ケアを支える科学・技術は、いまどこに向かい、これからどこへ向かうべきなのでしょう。その歴史から現在までの変遷を整理することで、これまでのテクノロジーとの向き合い方、そしてこれからの関係づくりについて考えます。</p> <p>塩瀬隆之（京都大学総合博物館 准教授／京都）</p> 
14:00 } 14:30	<p>プレゼンテーション1</p> <p>働きもののロボットが病院をどう変えたのか</p> <p>虐待やバーンアウト（燃え尽き症候群）が起こる現代、子どもや患者をケアするだけでなく、それを支える『ケアする人』をケアすることも重要になってきています。医師や看護師の負担を少なくするため、薬剤や検体（血液や尿など）を運ぶ院内自律搬送ロボット「HOSPI」という医療福祉ロボットの導入。5年たった現在、医療従事者や患者にどのような影響をおよぼしているか現場の声を聴きます。</p> <p>松本晴美（松下記念病院 看護師長／大阪）</p> 
14:30 } 14:40	<p style="text-align: center;">休憩</p>
14:40 } 15:30	<p>プレゼンテーション2</p> <p>人と人をもっと近づけるロボットメディア</p> <p>人とテクノロジーの距離を近づけるための「形」「機能」「感情」とはどういうものなのでしょう。人間として最低限の姿形をして、想像の余地を残したテレノイド。自分自身の記憶や感情を投影させることで、これまでにないロボットとの関係性を生みだしています。高齢者施設への導入で、職員、入居者・利用者の行動や心情はどのように変化したのでしょうか。テクノロジーを通じて、人と人をより強く結ぶためにできることを探ります。</p> <p>山崎竜二（株式会社国際電気通信基礎技術研究所[ATR] 研究員／京都） 神山晃男（株式会社テレノイド計画 代表取締役社長／京都） 淡路由紀子（特別養護老人ホームグレイスヴィルまいづる 施設長／京都） 河村芳枝（高齢者総合福祉施設神の園 ユニットリーダー／京都）</p>  <p>テレノイドは大阪大学とATR石黒浩特別研究室により共同開発されたものです</p>
15:30 } 16:00	<p>プレゼンテーション3</p> <p>愛着に応える技術者の情熱</p> <p>1999年にAIBO（アイボ）という犬型ロボットが発売されましたが、2014年3月末には製品対応が終了し、修理窓口もなくなりました。「壊れたからと捨てることはできない」「子どもと一緒に。ロボットとは思えない」と、AIBOをモノと思えない人たちに、技術者が立ち上がり修理専門工房を興しました。人がロボットにもつ愛着や哀しみを通じて、人とテクノロジーのありかたを再考します。</p> <p>乗松伸幸（株式会社ア・ファン A・FUN ～ 匠工房 ～ 代表取締役／千葉）</p> 
16:00 } 16:10	<p style="text-align: center;">休憩</p>
16:10 } 17:00	<p>総合的なディスカッション／質疑応答</p> <p>コーディネーター：塩瀬隆之</p>